



私が行くのは「これから」の国 自分の経験をその国の将来に生かせる 礎が創ればとても幸せです

江口隆之さん 国際協力事業団シニア海外ボランティア



「定年退職後、何かボランティアをしよう」といろいろ探していたときに家族が見つけてくれたのが、シニア海外ボランティア募集の新聞記事でした。ここにこやかに話してくれるのは富士見にお住まいの江口隆之さん。無機化学製品を製造する会社で技術開発や市場開発に携わってきた経験を生かして、中東のジョルダン王国(ヨルダン)で2年間技術指導をしてきました。

在職中、イギリスやドイツへの海外出張を何度も経験していたものの、中東へ行くのは初めて。生活や治安の面で不安があったそうです。現地では、初めはいろいろ戸惑うこともありましたが、話をしていくうちに義理堅く遠慮深く人情の厚い人たちであることがわかり、家族や親類をととても大切にするところなど日本人にそっくりで、気が

つけば生活するうえでの不安はまったくなくなっていました」と当時を振り返ります。年間降水量が200㎜以下、特に4月から11月は雨がまったく降らないジョルダンでは、都市の生活排水さえも農業に利用しなくてはなりません。そして、その水が農業に適しているのか、基準となる指標ができていないのです。その指標を作るために、

農業省の研究所で農作物や水に含まれる微量重金属の分析方法を指導するところが江口さんの任務でした。「水不足はジョルダンでは深刻な問題で、政治や外交にも影響するほどです。蛇口はあっても水が出るのは1週間に1日だけ。それも風呂桶1杯



微量重金属の分析方法を解説する江口さん

産物の市場開発の指導にあたります。

土屋県知事から「さいたま親善大使」として委嘱されている江口さんは、家族の理解があればこそ、埼玉の、そして日本の代表という気持ちで楽しく働いてきたいと思えます。できることなら、ずっとボランティアを続けていきたいですね。帰国したら、今度は自分の身近な狭山市で活動したいと思えます」と、その胸に秘めた想いを話してくださいました。

ものづくり
人づくり
狭山の産業



水菜の収穫作業中におじゃましました

青柳の水菜栽培農家で、JAいるま野狭山野菜部会の会長を務める諸口栄治さん。ハウス栽培は平成元年から始め、当初チンゲン菜を作っていました。4年前、水菜の食感に魅力を感じ、シャキシャキした歯ごたえは現代人の好みにも合うし、今後需要が伸びると直感して栽培を始めました。この水菜は「京菜」とも呼ばれ、諸口さんの予想どおり急速に普及しており、サラダや鍋料理などに使われています。「これからの農業には、土地を愛し、安定出荷を心がけることが必要です」の言葉どおり、5,200㎡のハウスで水菜を一年を通して出荷しています。また、パートさんとの信頼関係も大切にしており、「責任ある仕事のために、よい雰囲気職場作りが私の務めです」と諸口さん。農業が大好きで、新しい農家経営の手法を実践している、狭山の産業を支える経営者です。
(諸口栄治さん・青柳・水菜栽培農家)

つづき自治会

柏原第5区自治会

当自治会は、柏原ニュータウンに隣接する、世帯数150戸余りの住宅地です。春は地区内の空き缶拾い清掃を行います。また、最も人出の多い夏の納涼盆踊り大会は、民謡会、ソフトボール部お楽しみ会、育成会の協賛により模擬店も準備され、家庭的な雰囲気の中で盛大に開催されます。秋には体育祭にも大勢参加し、地区の交流の場にもなっています。その他にも自治会ではさまざまな活動を展開しており、通学路を児童が歩きやすいように改善したり、防犯灯を点検し、整備を随時行つたなど、文字どおり明るい地域作りに取り組んでいます。



Hello ハロー
仲間たち

Vol. 260

「つつじ野テニスクラブ」



智光山公園テニスコート

私たちつつじ野テニスクラブは、昭和58年に結成され、男性23人、女性11人で活動しています。毎月第1・3・5土曜日と第2・4・5日曜日につつじ野団地のコートで、その他の土・日曜日は智光山公園テニスコートなどで、気持ちのよい汗を流しています。テニスを通じて健康な心と体をつくるのがモットーです。

今年の冬はよく雪が降りましたが、そんなときはコートがすぐに使えるように、みんなが雪かきをしました。また少々の雨でも練習するなど、本当にテニスが大好きな人の集まりで、夫婦で参加している会員が多いのも特徴の一つです。練習は限られた時間・スペースでみんなが平等に楽しめるように、番号のついたカードを配ってフレイの順番を決めるなどの工夫をしています。また、市の大会には必ず参加してきました。

きれいで使いやすくなった智光山公園のテニスコートで国体が行われるのを楽しみにしています。

●問合せ

宮崎哲夫さんへ

☎9555 6576